

発問

多様な考えを引き出す、学びに主体性をもたせる、思考の深まり、広がりを持たせるにはどうすればよいのでしょうか？教師の発問の工夫一つで授業は変わる！

- 授業の冒頭から最後の振り返りの場面まで多様な場面でなされるもの
- 本時のねらいに向かわせるためのもの（学びの文脈を創るもの）
- 学習内容の確かな習得に向かわせるもの
- 学習内容に即して、深く追求させ、発展させるもの
- 子どもの多様な思考や心情を引き出し、深めさせたり、発展させたりするもの

よい発問の条件 『発問の基礎基本5つのポイント』

- 1 子どもにとって明瞭・明快な「発問」であること
 - わかりやすい言葉で、意味が明確な発問にしよう。
 - 問いの方向性は「ねらい」に向かうためのものか確認しよう。
- 2 計画的・意図的な「発問」であること
 - 学習の流れに沿って計画された発問をしよう。
- 3 興味・意欲を呼び起こす「発問」であること
 - 子どもたちの考えようとする意欲を呼び起こす発問をしよう。
- 4 児童生徒の実態に合っている「発問」であること
 - 一人一人への配慮がある発問をしよう。
- 5 タイムリーな「発問」であること
 - 子どもの考えの筋道に応じて、発問のチャンスをとらえよう。
 - （工夫された発問でも、機を逸すると効果は半減してしまいます。）



「深い学び」のある授業にするために

アクティブ・ラーニング

その1 発問の方法を使い分けることで思考の広がり、深まりが期待されます！

- ① 答えが限定的な発問（一問一答型）
- ② 多様な考えを引き出す発問（オープン型）
 - オープン型を通して様々な考えを引き出しながら、一問一答型を通して「理由」「根拠」「方法」等を問うていく。

その2 「ゆさぶり発問」で自分の考えを見直すことが期待されます！

- ① 「みんなはこう言ったけど、この方法はどうか？」（あえて間違いを問う）
- ② 「ほんとうにこれでいいのかな？」（もう一度考えを見返す時間を作る）

その3 子どもへの「問い返し」でより思考の深まりが期待されます！

- ① 「それは、なぜですか？」（理由を問う）
- ② 「どのようにしてですか？」（方法を問う）
- ③ 「この数字の意味は何ですか？」（意味を問う）
- ④ 「それはどこからわかりますか？」（根拠を問う）
- ⑤ 「これとこれはどう違うのですか？」（違いを問う）

